

都内における糖尿病医療連携取組状況実態把握調査 集計表

I 実態把握調査の概略

1 調査の概要

都内における糖尿病地域医療連携の取組状況を把握し、都内全域における有効な医療連携推進に役立てるため、協議会委員、医師会、区市町村、関係団体等に取組状況実態把握調査を行った。

調査対象数	104件(地区医師会含まず。地区医師会は都医より依頼。)
回答数	72件
回収率	69.2%
調査日	平成21年8月11日発送/9月18日〆切

2 調査結果

調査結果から、現在行われている取組は、次の2パターンに分けることができる。

- 連携ツール(パス、手帳、ガイドライン等)を用いた医療連携に取組んでいる団体
- その他の団体(おもに勉強会・研究会を中心に活動)

II 全体の把握

グループ・団体数	40
参加人数(のべ)	9,038
医療機関数(のべ)	1,969

※上記参加人数及び医療機関数はアンケートに記載された数である。回答によっては参加人数等の回答が無かったものもあるため、実際の数値は上記数値よりも多いと推測される。

III 取組内容による分析

II-3「活動内容種別」のうち、a)「連携ツールを用いた医療連携関係」に該当すると回答した(他の選択肢との重複含む。)団体を『ツール系』、それ以外を『勉強会系』として、取組の内容別に調査内容の規模を比較する。

1 全体

	全体	ツール系	勉強会系
グループ・団体数	40	21	19
参加人数	9,038	8,095	943
医療機関数	1,969	1,439	530

○ 勉強会系の回答はほぼ参加人数が記入されているのに対し、ツール系では大規模団体NPO法人ADMSの人数は含まない

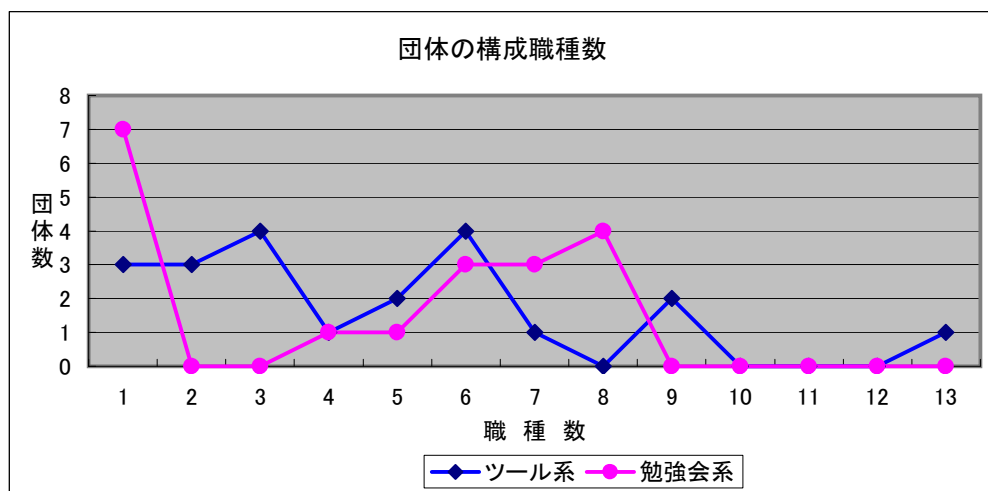
2 参加者職種

	全体	ツール系	勉強会系
a) 医師	36	21	15
b) 歯科医師	12	6	6
c) 薬剤師	19	9	10
d) 栄養士	16	7	9
e) 管理栄養士	21	10	11
f) 看護師	19	7	12
g) 糖尿病療養指導士	17	8	9
h) ソーシャルワーカー	5	2	3
i) 介護職(ケアマネ、ヘルパー等)	4	1	3
j) 事務	17	12	5
k) 患者	5	3	2
l) 行政	9	9	0
m) その他	4	2	2

○ツール系には、事務職や行政が関与する傾向にある。

○看護師は勉強会により多く参加する傾向にある。(勉強会が病院内で行われているためか。)

(参考)



○ツール系では平均して4.61の職種が参加しており、最も参加職種の多い団体で13職種、最も少ない団体は、1職種の団体である。

○勉強会系では平均して4.57の職種が参加しており、最も参加職種の多い団体で8職種、最も少ない団体で1職種の団体である。

3 活動内容種別

	全体	ツール系	勉強会系
a) 連携ツール（パス、手帳、診療連携ガイドライン等）を用いた医療連携関係	21	21	0
b) 専門家と非専門家との連携のための勉強会・研究会	25	16	9
c) 糖尿病治療に係る関係職種間の連携のための勉強会・研究会	23	12	11
d) 患者教育の取組（講演会等を含む）	15	10	5
e) その他	5	3	2

○ツール系の団体は、勉強会も実施している。（団体の発足として、勉強会からスタートとなるのか。）

4 取組実績等

	全体	ツール系	勉強会系
a) パス	12	10	2
b) 手帳	12	10	2
c) 診療連携ガイドライン	8	8	0
d) 診療情報提供書様式	14	12	2
e) 連携医療機関リスト（調査含む）	15	15	0
f) 勉強会・研究会	33	15	18
g) 普及啓発講座	7	7	0
h) その他	0	0	0

○ツール系においては、21団体のうち15団体で連携医療機関リストを作成しており、a)からe)のツールの中では最多である。

○連携医療機関リストと診療連携ガイドラインの両方を実施している団体は21団体のうち7団体である。

IV 地域性の分析

取組の分布状況等を区部と多摩部に種類分けして分析を行う。

1 参加者・参加医療機関の主な所在地別

	団体数	参加人数	参加医療機関数
区部	20	882	827
多摩部	18	1,506	946
都内全域	2	6,650	196
合計	40	9,038	1,969

○ただし、区部の人数にはNPO法人ADAMSを含まない

2 区部における圏域別の分布状況

※圏域をまたがって活動をしている団体はダブルカウントしているため、上記団体数とは一致しない。

二次保健医療圏（区部）	団体数	
		ツール系
区中央部(千、央、港、文、台)	2件	2件
区南部(品、大)	4件	4件
区西南部(目、世、渋)	3件	2件
区西部(新、野、杉)	2件	2件
区西北部(豊、北、板、練)	5件	2件
区東北部(荒、足、葛)	7件	2件
区東部(墨、東、戸)	1件	1件
合計	※24件	15件

○二次保健医療圏単位では、連携ツールにおいても空白地帯はない。

○一次保健医療圏（区市町村）単位でのツールの取組への参加状況は次のとおりである。

自治体名の後の（ ）内はその区におけるツールの取組団体の数を指す。

また、アミカケの自治体は、回答で「参加医療機関等の主な所在地」としての記載がなかった地域である。

区中央部(千、央、港、文、台)	港(2)	千代田	中央	文京	台東
区南部(品、大)	品川(3)	大田(3)			
区西南部(目、世、渋)	目黒(1)	渋谷(1)	世田谷		
区西部(新、野、杉)	新宿(1)	中野(1)	杉並		
区西北部(豊、北、板、練)	板橋(1)	練馬(1)	豊島	北	
区東北部(荒、足、葛)	荒川(1)	足立(2)	葛飾(1)		
区東部(墨、東、戸)	墨田(1)	江東(1)	江戸川(1)		

※ なお、現在、区西北部は、圏域別検討会立ち上げに向けて準備を進めている。

3 多摩部における圏域別の分布状況

二次保健医療圏（多摩部）	団体数	
		ツール系
西多摩（青梅、福生、羽村、あきる野、瑞穂、日の出、檜原、奥多摩）	4	3
南多摩（八王子、町田、日野、多摩、稲城）	6	4
北多摩西部（立川、昭島、国分寺、国立、東大和、武蔵村山）	3	2
北多摩南部（武蔵野、三鷹、府中、調布、小金井、狛江）	6	2
北多摩北部（小平、東村山、清瀬、東久留米、西東京）	4	3
多摩全域	2	0
合計	※25件	14

○多摩部においては、ほとんどすべての自治体がいずれかのツール系取組に参加しており、区部に比べてツールの分布状況は広範である。

○現在、多摩部ではすべての二次保健医療圏で圏域別検討会が立ち上がっており、いずれも連携ツールについて検討事項としている。